

# 生物リテラシーと遺伝子組み換え食品の受容に関する調査

峯 昌啓\*, 岡本左和子\*, 濱田美来\*\*, 藤馬裕一\*\*, 今村知明\*  
 \*奈良県立医科大学公衆衛生学講座  
 \*\*(株)三菱総合研究所地域創生事業本部 地域産業戦略グループ

## 背景

- GM (genetically modified) 食品の普及
  - 2015年11月、米国でのGMサーモンの生産・販売の承認
  - 2017年8月、カナダでGMサーモンの販売したと発表
  - NBT (new breeding technologies) の登場
- リスクコミュニケーションの複雑性が増大
- 日本の消費者のリスクの認知と受容の乖離

## 研究目的

- 生物リテラシーの差異がGM食品の受容に影響を与えるか検証する。
  - ①高校での履修課程(旧課程、旧々課程など)の違い
  - ②高校での履修状況(生物Ⅰ、生物Ⅱなど)での違い
- という観点から評価する。

## 方法 1

調査期間: 2016年3月~4月  
 対象者数: 1,593人  
 調査方法: Wwbアンケート調査  
 解析:  $\chi^2$ 検定(解析者を盲検化)

## 方法 2

- 調査項目:
- 履修した学習指導要領の区分
    - ・旧々々(40歳と45歳)
    - ・旧々(30歳と35歳)
    - ・旧課程(20・21歳と25歳)
  - 生物の学習状況
    - ・生物Ⅱ相当を学習
    - ・生物Ⅰ相当を学習
    - ・生物を学習していない
  - GM食品の受容性/GM食品の利益・リスク認識に対する抵抗感・摂食意向

## 結果 1

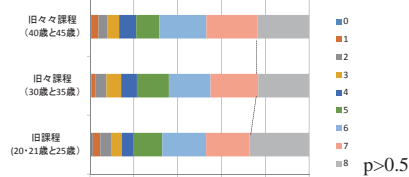
対象者数	1,593		
有効回答数(回収率)	1,273 (79.9%)		
性別(男:女)	616:657(48.3%:51.7%)		
年齢	旧課程	20・21歳	203(15.9%)
		25歳	202(15.9%)
	旧々課程	30歳	214(16.8%)
		35歳	217(17.0%)
	旧々々課程	40歳	212(16.7%)
		45歳	225(17.7%)
生物の履修状況	高校の時に理科の科目選択をしていなかった	298(23.4%)	
	理系の専門科目として「生物」を選択していなかった	122(9.6%)	
	『生物Ⅰ』、『生物ⅠA/ⅠB』または『理科Ⅰ』	435(34.2%)	
	『生物Ⅱ』または『生物』	242(19.0%)	
	『生物Ⅰ』、『生物Ⅱ』相当、両方選択	176(13.8%)	

生物の履修状況は年齢、性別に均等割り付け

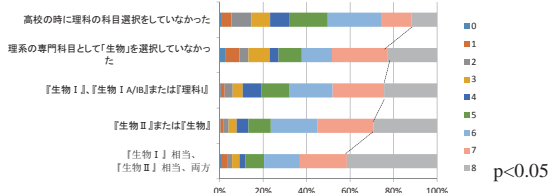
## 結果 2

遺伝子組み換え・消化に関する知識(6点+2点の8点満点)

履修課程別



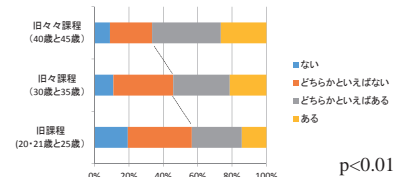
履修状況別



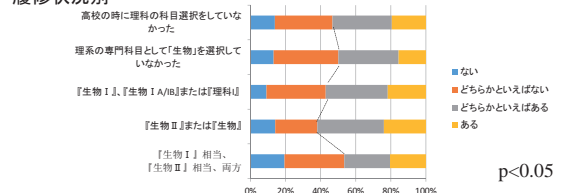
## 結果 3

GM食品への抵抗感

履修課程別



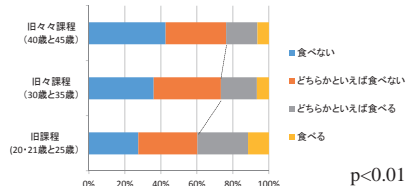
履修状況別



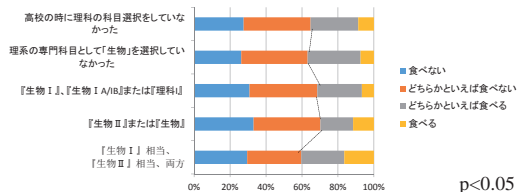
## 結果4

品目によるGM食品の摂食意向「GMの野菜を食べますか」

履修課程別



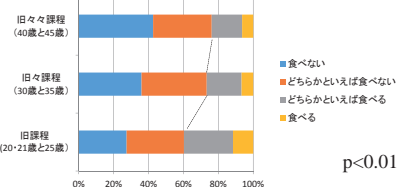
履修状況別



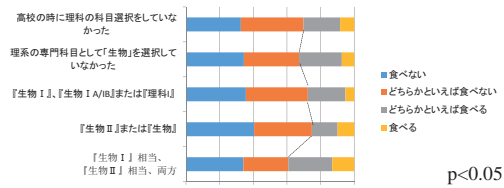
## 結果5

品目によるGM食品の摂食意向「GMの魚を食べますか」

履修課程別



履修状況別



## 結果6

「GM野菜」と「GM魚」の摂食意向の違い

同一履修課程

	N	GM野菜を食べるか 平均点	GM魚を食べるか 平均点	平均点差	p
旧々々課程 (40歳と45歳)	437	2.01	1.87	0.13	<math><0.01</math>
旧々課程 (30歳と35歳)	431	2.07	1.97	0.09	<math><0.01</math>
旧課程 (20・21歳と25歳)	405	2.34	2.24	0.1	<math><0.01</math>

同一履修状況

	N	GM野菜を食べるか 平均点	GM魚を食べるか 平均点	平均点差	p
高校の時に理科の科目選択をしていなかった	298	2.16	2.06	0.1	<math><0.01</math>
理系の専門科目として『生物』を選択してなかった	122	2.18	2.06	0.12	<math><0.01</math>
『生物Ⅰ』、『生物ⅠA/ⅠB』または『理科Ⅰ』	435	2.07	1.97	0.1	<math><0.01</math>
『生物Ⅱ』または『生物』	242	2.08	1.94	0.14	<math><0.01</math>
『生物Ⅰ』相当、『生物Ⅱ』相当、両方	176	2.27	2.18	0.09	>0.05

## 考察・結論

➢ GM食品の受容に関して、履修状況別、履修課程別に差がある

- 生物を詳しく学習した者は遺伝子組み換えの基礎的な知識を持っているが、必ずしもGM食品の抵抗感が低いわけではない
- 履修課程別では若い年齢層がGM食品の抵抗感が低い

➢ 高校での学習だけでなく、社会人になってからの情報や経験を通じた学習の方が、GM食品への抵抗感や受容への影響が強いことが推測された。

ご清聴ありがとうございました。

本研究は平成29年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「バイオテクノロジーを用いて得られた食品のリスク管理及び国民受容に関する研究(H27-食品一般-004)」の一環として実施したものである